

おわりに

総合メディア基盤センター発足後4年間の歩みを見ていただきました。最初の1年間は、国立大学法人化前ですが、設立時のミッションを基礎に活動をしました。国立大学法人化されてからは、金沢大学全体としての中期目標が設定され、その下で中期計画が策定されました。センターでも、全学の中期目標にあわせて、設立時のミッションを基礎に、中期計画を策定しました。これらは、全学の中期計画にはその一部のみ取り込まれました。今回の自己評価書では、センターの中期計画をベースに評価を行っています。

情報教育部門を中心としたミッションは、1. 情報基礎教育の企画 2. ICT教育の推進 3. 情報処理系の資格取得教育援助です。この部門は特にこの4年間、現代GPの採択もあり、更に共通教育のカリキュラム変更もあって、多くの仕事をしてきました。特にICT教育では、教育実践でも教材作成でも、短期間で多くの成果を上げてきております。これらの活動は、全国でも高い評価を得てきていると思います。今後は、ICT教育実践は、大学教育開発・支援センターを中心に進み、総合メディア基盤センターは、ICT教育推進室の活動に基づく教育支援とICT教育の評価に基づく質的改善、教材作成支援、情報基礎教育の企画および情報教育基盤整備面での貢献が主となっていくでしょう。

学術情報部門を中心としたミッションは、1. 知的情報のデータベース化 2. 知的情報の発信 3. データベース技術の研究です。この部門は、教員が2名で専任技術員もいない中で、益々高まる全学の教育、研究、行政全ての面でのデータベースの整備統合で大きな活動をしてきました。まだまだ、各部局の動きはばらばらです。将来的には総合メディア基盤センター内に統合データベース化のための「情報管理室」のようなものを設置していく必要があります。そのためには、人員や予算が必要です。この部門のミッションは、引き続き重要となっていくでしょう。

情報基盤部門を中心としたミッションは、1. 情報基盤管理運用 2. セキュリティ 3. ITサービスです。第4章に記述されているように、その仕事は金沢大学におけるネットワークの安全、安心な管理、運用や日常的な教職員、学生ユーザからのきわめて多くの要望を献身的にこなしてきています。新しいIT設備を導入し省力化、効率化を図ってきてはいますが、ユーザからの要望は多種多様でますます増大し、一方外部からのネットワークへの攻撃もますます増加しており、現在の人員ではまったく手不足となってきています。一部の業務（個別PCに関するよろず相談など）を外部委託などに変更せざるを得なくなっているかもしれません。それには、しかし予算が必要です。さらにこの部門では、金沢大学の平時、有事での危機管理に対するミッションも新しく付け加わるでしょう。これまでの仕事を更に整理し、合理化して新しいミッションを進めていけるようにする必要があります。

センターは改組後、教員数は2名から8名になりましたが、面積は増えておりません。

現在でも兼担教員は、それぞれの学部に面積をもらって、教員室を確保しています。本来なら、センターに教員室や学生室、研究室などを必要とします。施設面積の要求を出しておりますが、なんとか実現させたいと願っております。

今後の金沢大学におけるセンター全体の役割ですが、全学のデータベースの統合管理と利活用のための「情報管理室」も大切です。同時に、各部局がG Pや科研費その他いろいろな予算で設置する ICT 設備計画で、すでに導入されている既存システムの有効活用を図って、無駄な投資を節約したり、設備、機器類の保守管理の長期計画のために、導入の前にセンターと相談をしていくことが大学全体として重要となるでしょう。そのためには、1部局にすぎないセンターに直接設置するのではなく、情報企画会議の下に常設の「情報管理室」を設けて、情報担当理事を責任者とし、センターの各部門が実働部隊として協力する体制が重要だと考えます。情報担当理事や情報企画会議と相談していく所存です。

今後とも、全学の皆さんの暖かいご協力をお願いします。

